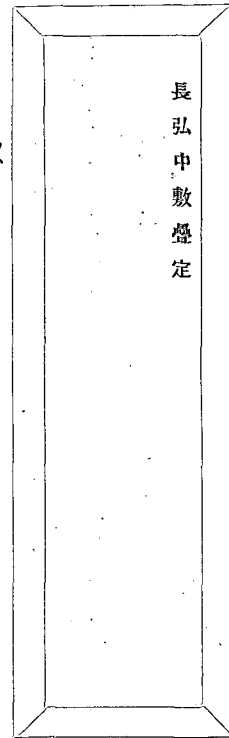


〔雅亮装束抄〕もやひさしのてうどたつる事

そのうへ○縁綱帖綱 にからあやのおもてにしきのへりさしまはして、わたいたれたるがうちうらつ
けたるをしきとちつたり、これをうはむしろといふなり

〔類聚雜要抄四〕表筵三枚各一枚



長弘中敷疊定

縁青地小文唐錦
弘三寸
裏濃打物又唐綾用之

永久三年又面筵裏平絹縁唐錦○中略

表筵康平六年七月三日、花山院内大臣殿○藤原師實移御被用之、

表筵三枚各一枚

今案、永久三年七月廿一日、東三條關白○藤原忠實右大臣殿○右大臣恐内大臣誤、時忠實子忠通爲内大臣、移御被用之、色目

同前也

弘并長、各中敷寸法同前也、縁弘三寸四方廻天差之、青地小文唐錦裏濃打物

〔三中口傳三條〕一鋪設装束事

上筵事

白唐綾二幅ヲ面ニシテ、濃打タル裏ヲ付テ綿ヲ不久良加ニ入テ、青地錦ノ縁ヲ四方ニ著之、

帳臺ノ内、上敷疊ノ上敷之、四方ヲ所々閉付也、

京筵著縁ハ非法式不用晴儀、唯私今案也、

〔嫁入記〕一うはむしろしく事、まづむしろのかみをのべて、その、ち下をのぶるた、むときはか